



自ら問いを立て 学び続ける力の育成

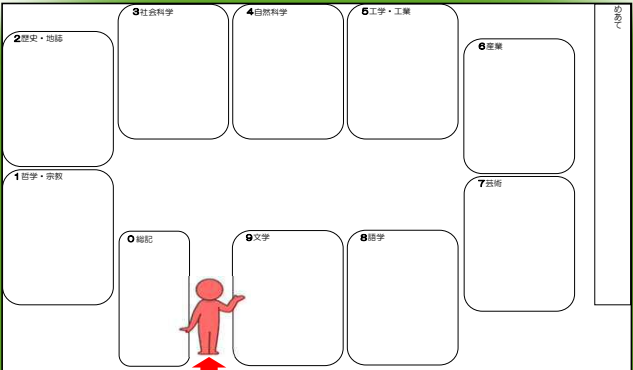
—学校図書館との対話を通して
(中学校社会科の授業を例に)—



多面的・多角的な見方・考え方

図書分類を 考えを整理する 枠組みとして使う

さまざまな情報が「分野ごとに整理されている」という
学校図書館の機能を活用し、ものの見方や考え方を、
具体的に体験できる授業の工夫をしてみませんか？



「分類ワークシート」

情報1

WWFが熱帯雨林を救うために世界中から資金を募り100万ドル以上集まり熱帯雨林の保護に地球の人の数に合わせたプログラムにボリス・ベコフを結集して熱帯雨林の保護活動に力を入れている。熱帯雨林は地球上の生物多様性の宝庫であり、人間の生活に不可欠な資源を提供している。WWFは熱帯雨林の保護活動を通じて、持続可能な開発目標（SDGs）の達成に貢献している。

著者：ベコフ・デントン
発行所：WWF
発行年：1998年

情報2

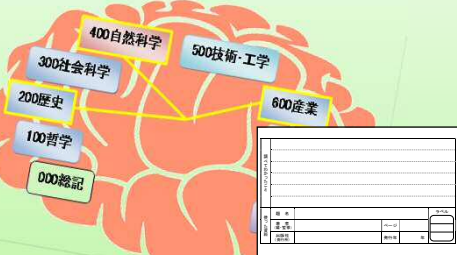
人間の活動がもたらした気候変動は、地球の生態系に深刻な影響を与えている。気候変動は、海面上昇、極端な気象、生物多様性の喪失などを引き起こしている。気候変動は、人間の生活に深刻な影響を与えている。気候変動は、人間の生活に深刻な影響を与えている。気候変動は、人間の生活に深刻な影響を与えている。

著者：清水 潔
発行所：実業日本社
発行年：2010年

情報3

地球温暖化の原因は、温室効果ガスの増加による。温室効果ガスは、太陽の光を吸収し、地球の表面を暖める。温室効果ガスの増加は、地球の気温を上昇させ、気候変動を引き起こしている。温室効果ガスの増加は、地球の気温を上昇させ、気候変動を引き起こしている。温室効果ガスの増加は、地球の気温を上昇させ、気候変動を引き起こしている。

著者：中谷内康之
発行所：PHP研究所
発行年：2010年



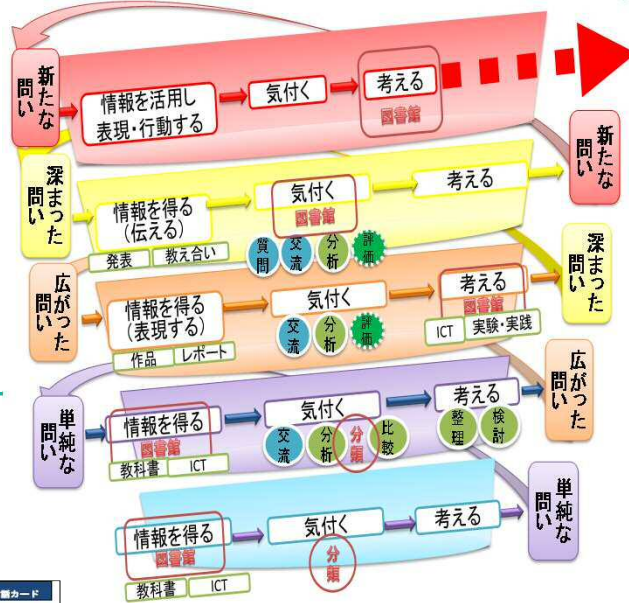
「情報ワークシート」

異なる図書分類の情報を組み合わせて自分の考えを作る
学習に取り組みます。「情報カード」を複数組み合わせた
ワークシートで、様々な視点から考えることが
できるよう工夫しています。

自ら問いを立て 獲得する学び

対話と可視化の要素を活かし 子どもが自ら立てる問いをもとに学びを進める

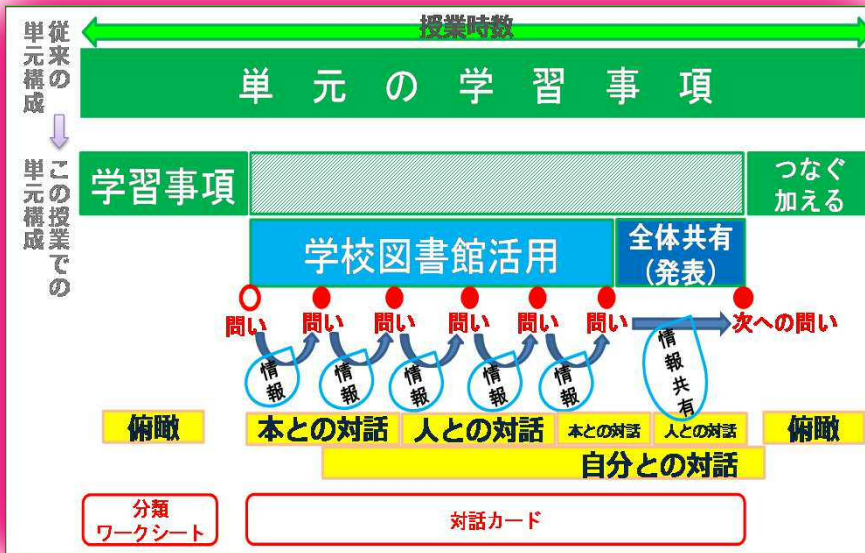
学校図書館では、さまざまな
対象との対話的な学習が可能
です。また、情報と思考を紐
づけて記録していくことも可
能です。それらを活かし、子
どもの中に生まれる「なぜ？」
という問いをかきたて、子
ども自身で学びを獲得するよ
うな授業を組み立ててみませ
んか？



「人との対話カード」

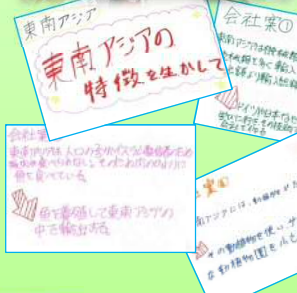
「自分との対話カード」

「本(情報)との対話カード」



④自分との対話

一連の学習を終えたところで、「自分との対話カード」を使って「学習内容」と「学び方」について振り返ります。それらを踏まえて、次の学びにつなげる問いを立て、学習を終えます。この問いが子どもの学びの世界をさらに広げます。



ゴール

学び方を振り返る

次につながる問い

学習内容を振り返る

3「学び方をふりかえる」

学習をどのように進めてきたか、学び方について新しい発見があったか、いさなり、どんな会社にするかばかり考えるのではなく、まずは、その地域の様子から知る必要がある。

【情報を得る】人の意見や疑問をもらうことは、自分の学習にどのように役立ったか、自分とは、違う目線から、私の提案を聞いて、考えてくれる人たちがあつた。意見や疑問を持ってもらえる。

2「次の学びにつなげる」

次に学習するとき追究したいこと（もっと知りたいこと、もっと調べたいこと、疑問に思っていること）

ICT関連産業をいかに活用する国の変化

疑問として残っていること

なぜ ICT 関連産業は、国内用より輸出を多く生産するのかわかる？

→ 国内用をつくり、国がほしいと買ってくれるようにしたいのでは？

【学んだことをふりかえる】

自分が学習してきた課題

南アジア（もう一度にどのような会社を作りたいか）

わかったことや考えたこと

・インドー教 → カースト制度 ... 職業ごとに区分された身分

・カースト制度 ... 職業ごとに区分された身分

・ICT関連産業 ... 技術と人材の育成

・国民の約70%が農民

・農業の技術が発展

→ 輸出用、ソフトウェア ... 世界に影響力を与えている

スタート

学習事項を分類することで...

- ①意味や内容を考える。
- ②わからないことは子ども同士で確認しあう。
- ③わかるまで教科書や資料を何度も読み返す。

さまざまな学習展開

- ①学習内容を俯瞰。
- ②分野・単元・教科間を比較・関連付け。
- ③キーワードを使って自分の言葉で説明。

学び合いを通して...

- ①物事に多面性があることに気付く。
- ②多角的な視点に気付く。

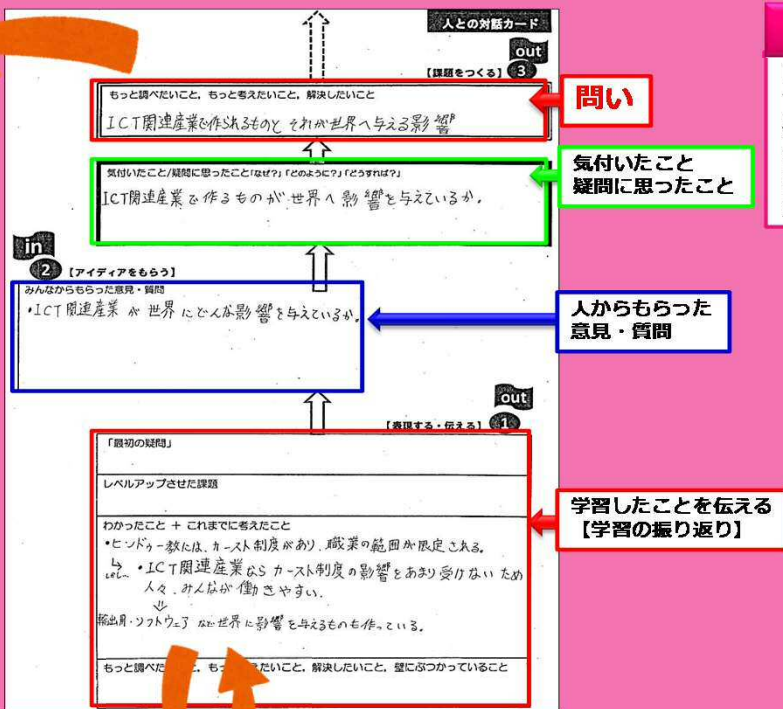


教科書や図書資料からキーワードを抜き出し「分類ワークシート」に分類していきます。全体を俯瞰、比較、関連付けしながら最初の問いを立てます。

①最初の問いを立てる

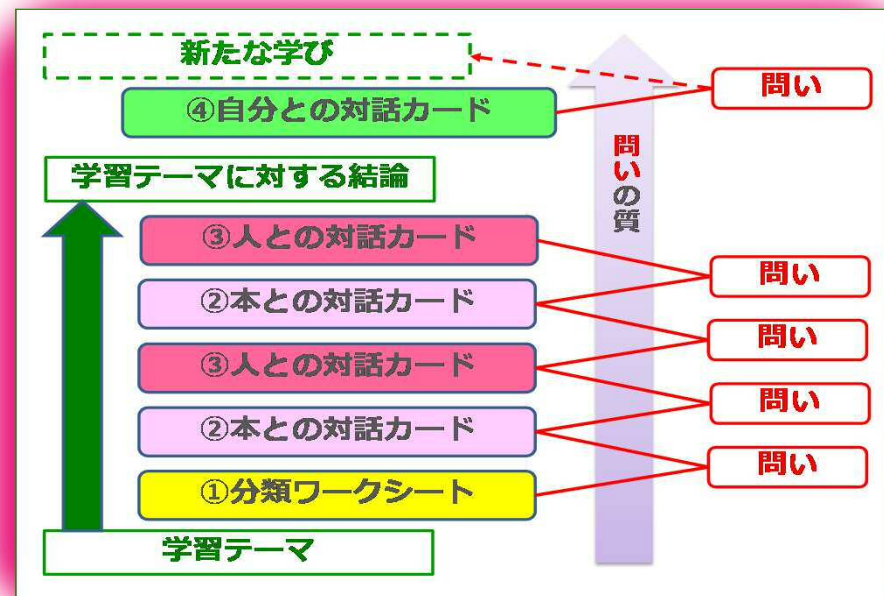
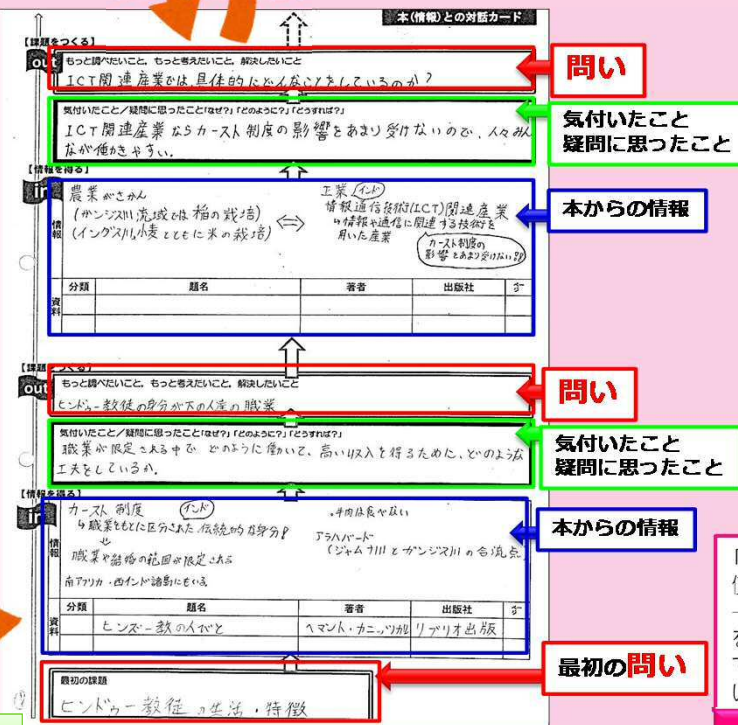
③人との対話

「人との対話カード」を使って自分の学習を振り返り、伝え合う活動を行います。人との対話を通して得た気づきを活かして、更に**問い**を立てます。



②本(情報)との対話

「本(情報)との対話カード」を使って「最初の**問い**→情報を得る→気付く→更に**問い**を立てる…」を繰り返すことで、子ども自身で学習を広げたり深めたりしていきます。



学校図書館での学びを支える「連携・支援」



「なぜそうなるのか」や「単純に〇〇はどうなるのか」など1つの疑問を
奥深く問いかけることができるので知識が増えた。
また、その疑問から様々なしてんから意見をもらうことができるので
考え方や見方が変わった。

京都発！確かな教育実践のために 32

自ら問いを立て 学び続ける力の育成

—学校図書館との対話を通して（中学校社会科の授業を例に）—

発行 平成29年3月

発行元 京都市総合教育センター

研究課・カリキュラム開発支援センター

〒600-8023 京都市下京区河原町通仏光寺西入ル

TEL 075-371-2705 FAX 075-353-4851